

スキー場で親子の笑顔が満開

～2006カルルス温泉冬まつり～

3月5日(日)、カルルス町のサンライバスキー場で『2006カルルス温泉冬まつり』（カルルス温泉冬まつり実行委員会主催）が開かれ、雪上は親子の笑顔が満開となり、冬の1日を思いっきり楽しんでいました。

この催しは、例年3月の第1日曜日に開かれており、今回も大勢の親子が会場に足を運びました。

プログラムは小学生対象の市長杯・和歌賞少年スキー大会、林間をめぐる歩くスキーの集い、雪中みかん拾い、親子ボブスレー大会、ストライクワン、ホールインワン、オロフレ雪原宝探し、雪上もちまき、無料のスキー・スノーボード講習会と今年も盛りだくさんの内容でした。

親子ボブスレー大会では勢いあまって転倒する親子が続出して観客から笑いを誘っていたほか、変化に富んだ3コースを用意したホールインワンでは見事カップに入れて大喜びするなど、参加者は一喜一憂。景品もお菓子やジュース、入浴券など全員に当たるとあって、参加者からは笑顔があふれていました。

この日は穏やかな天候にも恵まれ、ゲレンデには終日歓声が絶えませんでした。



▲ホールインワン

◀親子ボブスレー大会

シカの角でアクセサリー作り

～シカの角モノ作り～



2月25日(土)、文化伝承館で『シカの角モノ作り』（市主催）が開かれました。

この催しは、郷土資料館の年間企画『シリーズ登別の縄文文化』の一環として行われたもので、親子など12人が参加しました。

参加者は、市の学芸員から『シカと縄文人の関係』についての話を聞いた後、シカの角を使ったアクセサリー作りに挑戦。シカの角を思い通りの形にナイフで削りながらドリルで穴を開けたり紙やすりで磨いたりしながら、約2時間で首飾りやキーホルダーなどに加工していました。

出来上がったアクセサリーを手にした参加者は、満足そうな表情を浮かべていました。

ペンギンの鳴き声って大きいな

～公民館講座『ペンギン博士教室』～

3月4日(土)、登別マリパークニクスで公民館講座『ペンギン博士教室』（市主催）が開かれ、市内の小学3・4年生の児童が参加しました。

初めにペンギンの飼育を担当する堀江純子さんが、ペンギンの大きさや生息している地域、しぐさ、鳴き声などを説明。子どもたちは、ペンギンが世界に18種類いて、そのうちマリパークニクスにはキングペンギン、イワトビペンギン、ケープペンギンの3種類いることや人の歩く早さの5倍の時速約20キロで泳ぐことなど、興味深い説明に耳を傾けていました。

ペンギンを飼育する小屋を訪れたときには、大きなキングペンギンを注意深く観察。突然の鳴き声に子どもたちは「大きな声」とびっくりした様子でした。

最後は参加した全員に『ペンギン博士教室』の受講修了証が手渡され、小さなペンギン博士はニコニコ顔の様子でした。

